

提出日：2020 年 3 月 31 日

間違った思い込みに隠された事実

基礎演習 D 文献レポート
課題図書「FACTFULNESS」
NE19-1046B
井上翔大

1 序論

私は基礎演習 D の文献レポートに取り組むにあたり、二つある選択肢の中でどちらの課題図書に取り組むべきか悩んでいた。そこで私は課題説明の際に一緒に配布された「ファクトフルネス」のチンパンジークイズに挑戦してみた。問題を見てみるとそんなに難しいとは感じなかったため、さすがにチンパンジーには勝てると思っていた。しかし、結果を見てみるとまさかの全問不正解でチンパンジーに惨敗してしまった。今まで私は世界の情勢について何も知らなかったのかと思うと、恥ずかしくてたまらなくなった。

そこで課題図書のひとつである「ファクトフルネス」の情報を調べていると、ほとんどの人が世界のことについて間違った思い込みを持っており、この本を読むことによってその思い込みを作り出す本能について知ることができるとともに、現在の世界の情勢について正しい知識を得ることができるとわかった。

したがって、私は今までの間違った知識をアップデートしたいという強い気持ちのもとで、「ファクトフルネス」を読んでみようと考えた。また、本レポートのタイトルにもある通り間違った思い込みの裏には多くの事実が隠されていることにも気付かされた。この本を読み終え自分なりの考えをまとめて、「思い込みの強そうな人」に伝えることで事実が間違った思い込みに隠されてしまう原因を明らかにしていきたいと考える。

2 本論

2.1 ネガティブ本能に対処するには

2.1.1 現在の状況

私はこれまでメディアを通して見るニュースというと、残酷な殺人事件や大規模な自然災害などを目にする機会が多かった。確かにそういった事件は私も興味深いし、身の回りでもニュースで流れている危険なことが起きないか周知させることができる。

例えばテレビには多くの放送局があるが、どのチャンネルのニュース番組を見ても全く同じ内容のニュースを取り扱っていることがよくある。それは大抵先ほどあげた悪い事件や事故、災害などのニュースである。その時に私はもっと良いニュースを取り上げた方が良いのでは無いかと思う。なぜなら、世界が良くなっているという小さなニュースがあれば、悪いニュースばかり見ている人の気持ちが安らぐことになるからだ。よって、今のままでは人々はネガティブなニュースばかりに気を取られて、今の世の中は怖いというような悪いイメージを持ってしまい、暗い気持ちになってしまうと考えられる。

このようなネガティブ本能に対処することを私の性格と重ねた継続的な習慣にするためには、「良いニュースを自分から探しに行く」「悪いことが起きても、前よりは良くなっていると感じる」「ゆっくりとした進歩を記録する」といった3つのことをこれから意識していくことが重要であると考ええる。

2.1.2 良いニュースを自分から探しに行く

ひとつ目は、「良いニュースを自分から探しに行く」ことである。先ほどの小節で述べたように近年のメディアでは悪いニュースばかりが大々的に取り上げられており、メディアの利用者は世界では常にこんな悪いことが起きているのかと錯覚してしまう。そこで、自分から良いニュースを積極的に探しに行くことによって、世の中はそんなに悪いことばかりではなく、むしろ良いことの方が多いということに気づかせてくれるだろう。しかし、わざわざ自分から探しにいかねばならないというところに煩わしさを感じてしまう人がいたらインターネットを使うべきだ。インターネットは現代人が最も手軽に良いニュースを仕入れることができるツールである。インターネットには数多くの情報で溢れているため、そこから良いニュースを見つけるのはいとも簡単なことである。

例えば私であれば普段からスマートフォンをよく利用しているため、サイトからニュースアプリなどをインストールして毎日の空き時間に良いニュースをチェックすることができる。これはスマートフォンの使い方としても良い使い方であると考ええる。なぜなら普段はゲームをしたり、SNS を見たりしていることが多いため、世界の情勢に関する内容とは無縁な限定的な情報しか入ってこないからである。ニュースアプリなどを日々チェックしていれば、現在の世界の情勢をリアルタイムに知ることができるため、将来に備えて最新の知識を蓄えておくことができる。

2.1.3 悪いことが起きても、前よりは良くなっていると感じる

2 つ目は、「悪いことが起きても、前よりは良くなっていると感じる」ことである。近年のメディアは悪いニュースばかり放送しているため世界が悪くなっていると感じるが、先ほど述べたように良いニュースを自分から探しに行くことによって、世界がよくなっていることを知ることができる。しかし、人は悪いことの方が印象に残りやすいため、本当に世界は良い方向に向かっているのかと疑問に思うこともあるだろう。そこで私が読んだ「ファクトフルネス」の中に「『悪い』と『良くなっている』は両立する」([1]p.89) というハンス・ロスリング氏の言葉があった。私はこの言葉に対して強い感銘を受けた。世界が「良くなっている」からといって「悪い」ことから目をそらしていいわけではなく、頭の中に「悪い」と「良くなっている」という2つの考え方を同時に持つことによって、世界を正しく見る習慣を身につけることができると考える。

例えば、私は大学の授業などで新しい分野を学ぶ際、今までに比べて非常に難しいと感じて行き詰まってしまうことがある。しかし、そんなときは以前に学んだことを振り返り再度勉強し直すことで、以前はわからなかったところがわかるようになっていくと感じる。つまり、「悪い」ことが起きても（難しい分野に行き詰まっても）、前よりはよくなっていると感じる（わからなかった箇所がわかるようになっていくと感じる）ことでポジティブに物事を考えられるようになり、また一歩先に進むことができると考える。

2.1.4 ゆっくりとした進歩を記録する

3 つ目は、「ゆっくりとした進歩を記録する」ことである。ゆっくりとした進歩はなかなか気づきにくいものである。まさに「ファクトフルネス」のチンパンジークイズの正答率の低さが代表的な例である。チンパンジークイズにおいて多くの間違いをしてしまった人たちは、美化された過去に囚われすぎているのである。世界の環境や貧困、教育問題などは過去と現代では全く違う状況にあるにもかかわらず、現代の世界の情勢についてほとんど知らないため、過去とほとんど変わっていなかったり、過去よりどんどん悪くなっていたりという考え方が広まってしまっているのである。これを解決するためには「ゆっくりとした進歩を記録する」ことが重要である。「ファクトフルネス」の中には「減り続けている 16 の悪いこと」と「増え続けている 16 の良いこと」がわかりやすくチャートで掲載されている。これを見れば、以前よりも世界が良くなっていることが一目瞭然である。

例えば人間の成長にも同じことが言える。身長や体重の変化は子供の頃はとても大きな変化をしているためわかりやすいが、大人になってからだとはほとんど気づかないことが多い。そこで年に数回、身体測定をすることでその小さな変化を数字によって記録することができる。これによって生活習慣の見直しを図ることができるのは良い手段であると考える。

2.2 「思い込みの強そうな人」に正しく伝える

2.2.1 作戦

思い込みの強そうな人に対して、最初に「ファクトフルネス」の中でも書かれていた下記の 3 つの質問をする。

- (1) 世界の人口のうち、極度の貧困にある人の割合は、過去 20 年でどう変わったでしょう？
- (2) 世界の平均寿命はおよそ何歳でしょう？
- (3) 世界は良くなっているか、悪くなっているか、それとも変わっていないか？

これら 3 つの質問で得られた回答から、「なぜその思うのか」「いつからその思い込みを持っていたのか」などを引き出し、その思い込みがいかに間違っているか、これからどのような考え方が必要なのかを「ファクトフルネス」を読んで得た経験を元に解説していこうと考える。

2.2.2 結果

思い込みの強そうな人に対して上記の 3 つの質問をしたところ、得られた回答は全て不正解だった。その人は私が期待していた通り、世界について多くの間違った思い込みをしていた。正しい答えを教えると、その人はとても驚いた様子でなぜ間違えてしまったのかに関心を寄せていた。間違った思い込みをしていた原因について聞いてみると、やはり最近のメディアを通して、アフリカ大陸などの貧しい子供たちの映像をよく見かけるため、世界全体でもそういった子供たちが増えていると感じてしまうようだ。また、世界の平均寿命が約

70 歳であるところにも衝撃を受けていた。世界はこんなにも長生きできるようになっているのかと思うと、医療技術の進歩や犯罪件数の低下など世界は良くなっていることがわかり、安堵の表情を浮かべていた。

2.2.3 考察

今回思い込みの強そうな人に対して正しく伝えたことで、私だけでなく周りの人もみな世界について誤った認識を持っていて、これからアップデートしていく必要があることに気付かされた。自分が初めてチンパンジークイズにチャレンジしたときも感じたことだが、質問への回答を考えているときはそんなに難しく考えなくてもわかるような問題ばかりだと思っていたが、答え合わせをしてまさかの正答率の悪さに驚愕してしまう。まだ私たち一般人の正答率が低いただけならともかく、高学歴で国際問題に興味がある人まで同じような正答率だというのはさらに驚いた。なぜ私たちはここまで世界について間違った思い込みをしてしまったのか、それは 10 の本能にある。人間は誰しも 10 の本能を持っていて、そこからさまざまな思い込みを作り上げてしまうのだという。本書を読んだことでそれらに対処する方法を学び、今後の世界の正しい見方を教わるとともに、社会の正しい生き方についても教えられた気がする。

今回私が本書で理解した知識を思い込みの強そうな人に伝えたことによって、とても良いことをした気分になった。なぜなら誰かが間違った思い込みをしていると、多くの人にその思い込みが伝わってしまうからだ。そのため、私のような正しい見方を持った人間ひとりひとりがその知識を活用して、古い考え方を持つ人たちをアップデートしていくことによって、世界はどんどん良い方向に向かっていくと考える。特に私は学校の先生たちに本書を読んで欲しいと感じる。なぜなら、学校の先生は世界についてまだ何もわからない子供たちに対してさまざまな知識を植えつけていくことになる。そこで先生が正しい見方を持っていないと子供たちにも間違った見方が伝わってしまう。今の子供たちがこれからの社会を担っていく人材であるため、正しい見方を持って今後の情報化社会を生き抜いて欲しいと考える。

3 結論

私は「ファクトフルネス」を読んでとてもためになることが多かったため、「読んで良かった」と心から感じた。最初に本書を見たとき、こんなに大きくて分厚いとは知らなかったため、読むのが少し面倒だと感じてしまった。しかし、読み進めていくうちにハンス・ロスリングさんのさまざまな経験談がわかりやすく、面白く知ることができたため、とても素晴らしい文献であることに気づいた。本書で取り上げられている 10 の本能すべてが私の心境を見事に射抜いていて、まるで占いをしてもらっているような気分になった。私は今まで多くの間違った思い込みをしていて、その思い込みの裏には多くの事実が隠されていることがわかり、本書を読む前と後では世界の見方が大きく変化した。序論で

も触れた事実が間違っただけの思い込みに隠されてしまう原因としては、やはり現代のさまざまなメディアによる影響が大きいと考える。メディアは聞き手の不安を煽るような情報の伝え方をしているので、これから聞き手側はメディアを批判的に捉え、自分から行動して事実を探しに行くことが大切であると考えている。

参考文献

- [1] ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド（著）
上杉周作、関美和（訳）（2019）「FACTFULNESS（ファクトフルネス）10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣」一日経 BP 社